

令和元年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立福島東高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』について

○『学校経営・運営ビジョン』（別紙1）

○作成のねらい、意図、プロセス等

「令和元年度学校の自己評価等の進め方について」に基づいて、『ビジョン』の作成及び評価を実施した。平成30年度の改善点を踏襲した。

①『ビジョン』の重点目標は、校長の経営方針に基づく文言に加えて、各部・学年・教科の努力目標のうち、全教職員がその意義を共有し、チームを超えて学校全体で実現に取り組みたい事項を掲げた。

②『ビジョン』においては、「数値目標」ではなく「指標」を掲げた。

③『ビジョン』に関する自己評価の参考資料を得るためのアンケート調査においては、質問項目を精選した。

④各部・学年・教科の年度末評価（反省）の実施時期を早め、アンケート結果と併せての総括評価を第3回学校評議員会に提出できるようにした。これにより、学校評議員からの評価を踏まえて、次年度の計画策定をする時間が生まれた。

⑤全体として、学校評議員制度、人事評価制度等と学校の自己評価の体系を有機的に結びつけた。

⑥教員の日頃の探究的な取組を「可視化」するために、教員の人事評価シートに「研究テーマ」を位置づけた。

2 校内組織体制について

校務運営委員会を学校評価委員会に位置づけている。

3 自己評価等の進め方について（別紙2）

○『年間計画表』作成のねらい、意図、プロセス等

II 評価結果の概要

1 各部・学年・教科の年度末評価（別紙3）

2 学校経営・運営ビジョンに対するアンケート調査及びその結果（別紙4、5）

①調査の概要

対象	配布日	〆切日	回答率	内容
生徒	11月29日（金）	12月6日（金）	92.7%	質問は10～11項目に厳選し、評価者間の差も分析対象とした。
保護者			85.6%	
教職員	11月29日（金）	12月6日（金）	98.2%	

②評価の基準

「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4段階評価とした。

3 年度末評価のまとめ（『ビジョン』の総括評価）

1 教職員による評価

(1) 重点①「学びの充実」

学校全体として、授業を大切にしている。授業交換等により自習も少ない。

大学進学プロジェクトは計画通り実施され、進路指導部は3学年と連携し情報

提供に努めた。大学合格者については、国公立推薦・A0合格者は例年より多く、国公立大学合格者数も昨年度を上回った。しかし、本校の大学入試センター試験の平均点は全国平均を下回り、さらなる対策が必要である。

英語科は昨年度に引き続き外部資格試験（英検）受験を促した。

家庭学習時間と学習科目の時間配分等には課題がある。特に、1、2学年の平日の家庭学習時間の確保が課題である。

(2) 重点②「体育文化活動の充実」

多くの生徒が部活動を継続し文武両道を実践している。ソフトボール部、弓道部、放送委員会が全国大会に出場し、多数の部・委員会が東北大会に進出した。

(3) 重点③「キャリア教育の充実」

授業に加えて、地域社会見学、未来の知事選等、行政、地域企業等とタイアップしての取り組みが行われているが、総合的なコミュニケーション力の育成については、学校全体で改善の余地がある。

新体力テストA級取得者各学年5%アップを目指したが、達成したのは2年男子と1年女子だけであった。しかし、各学年とも他校と比較しても高水準を維持している。

一昨年度より、1年生の歯科治療率100%を指標の一つとした。部活動顧問からの働きかけを強化しているが、まだ45%ぐらいであり、さらなる働きかけを強化したい。

図書貸し出し数は、2,604冊（1/20現在）で1人あたり3.1冊であり、目標の4冊までは届かなかったが、昨年度より0.5冊増えている。

SNSの使い方や依存の問題は本校においても課題であり、平成30年度入学生から、オリエンテーションにおいて新入生とその保護者に、外部講師による講話を実施している。

(4) 重点④「情報発信・共有、施設の活用」

域内の中学生に対しては、東高見学会や高校説明会で「東高の教育」をアピールしている。また、ホームページによる情報発信も増加している。台風等の接近に伴う臨時休校等の連絡やインフルエンザによる学級閉鎖等については、緊急連絡メールが適切に活用された。

(5) その他

今年度より、50分授業に移行し時程も変更した。部活動の時間を確保しつつ、文武両面でのよき伝統を維持していきたい。

教職員の学校評価アンケート回答率は、大幅に向上した。

(6) 総括

計画に則った教育活動を実施することができた。教員は熱心に生徒と向き合い、学習活動・部活動・生徒会活動等の各方面で成果を出している。

「子どもを東高に入学させてよかったと思う」という問いに対する保護者の回答は、そう思う55.6%とややそう思う33.6%を合わせると89.2%であり、昨年度までと同水準で、満足感を持っていただいている。しかしながら、「入学してよかったか」という問いにそう思うと答えた生徒は、平成29年度の39.1%から、昨年度30.5%、今年度30.8%と減少傾向にある。また、「文武両道」というモットーが素晴らしいと思っている生徒も、平成29年度の30.3%から昨年度26.9%、今年度24.4%と、減少傾向にある。本校の特徴・強みを一層伸長させつつ、その意義を丁寧に生徒に伝えるとともに、文武を両立させて勉学の時間が確保できるよう、バランスの良い学校運営を図る必要を痛感している。

不登校・長欠、学校不適應、学業・進路の悩みでカウンセリングを受ける生徒は少なくない。課題の量や提出のさせ方等についても、改善を図っているところだが、学校に適應できない生徒の指導について具体的な改善策を講じる必要がある。

また、教員の在校時間調査でも、勤務時間をオーバーする時間が毎月80時間を

越える教員が少なくない。東高の教育目標の達成のためには、どうしても教員の力が必要であるが、健康も大切である。さらなる教員の働き方の改善に努めたい。

2 学校評議員による評価

(1) 肯定的な評価

- ①『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について
 - ・文武両道を実践し生きる力を身につける事は、日々変動していくこれからの社会人を育成するため今まで以上に必要であり適切なビジョンである。
 - ・方針が明確な言葉で明文化されており、内容も時代に即していて評価できる。
 - ・ビジョンに忠実な発信がされており、組織的な展開が感じられる。
- ②『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について
 - ・教職員が一体となって同じ方向に向かおうとしていると感じられ、本活動が学校改善に役立つものと思われる。
 - ・重点目標に沿った努力・課題解決意識が自己評価に表れており、学校内外に展開されている。
- ③広報とアンケート等について
 - ・学校HPや東高通信等の様々な媒体によって広く情報発信がなされている。アンケート結果の公表及び分析も適切になされており、説明もわかりやすく理解しやすい。
- ④取組み状況全体について
 - ・長時間労働の見直し対策として、今年度は会議や業務内容の変更があり、本来の活動効率が上がることを期待する。
- ⑤自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善
 - ・各部門の反省からは、年間を通じて取り組んできた目標に対する振り返りに加えて今後の検討課題や継続目標など前向きな姿勢・考察が読み取られる。
 - ・保護者の満足度は高いが、創立から40年が経過し、初期の男子校だった頃のビジョンが、今の生徒の実態に合わなくなってきているのは残念である。今年度、大学の指定校や公募推薦合格者が増えたのは、実態に合った適切な目標改善がなされたからだと思われる。

(2) 改善を要する点

- ①『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について
 - ・評価活動は、組織的・継続的に行われているが、評価計画が保護者にどのように伝えられているかがよくわからない。
- ②『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について
 - ・課外や土曜学習会の捉え方が、保護者と教員の評価に差がある。保護者の課外等への期待は変わらないが、教員の負担軽減も踏まえて改善する時期に来ている。
- ③広報とアンケート等について
 - ・HPの閲覧について、教員、生徒での認識に差が見られる。「見る」から「読む」にする工夫が必要である。
 - ・地域の方々へのアンケートも必要ではないか。
- ④取組み状況全体について
 - ・「生徒のために」という使命感には敬服するが、教職員の心身の健康も大事である。
 - ・学校のマottoに対する生徒の評価が年々低下している点が気になる。
 - ・部、学年、教科の反省の中で、反省ではなく報告であったり、未記入のところも見られる。
 - ・「本校はいじめ防止の取り組みをきちんと行っている」との設問に対し、そう思わないという生徒の回答が一定数存在していることが気になる。学校・保護者には顕在化していない事案があるのではないかと注視することを望みたい。
- ⑤自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善

- ・地域特性を考慮したとき、近隣の教育施設や商業施設等との連携した取り組み等が実現すれば、さらに地域から評価される存在になるのではないか。
- ・高校生活は、社会で「生き抜く」ための基礎を身につける時期であり、教職員が思いを共有し、社会に通用する「人材」を育成して欲しいが、教職員の過度な超過勤務の実態は、改善が必要である。

III 広報の概要

- 1 『ビジョン』、アンケート調査結果、年度末総括評価(学校評議員による評価を含む)については、学校のホームページで公表する。
- 2 アンケート調査結果については、次年度PTA総会等で配布する。
- 3 学校の教育活動全般については、ホームページの記事の更新、各種通信(『東高通信』(教務部)、ほけんだより、東高図書だより、生徒会新聞、東高新聞(新聞委員会)、生徒会誌『まほろば』、図書館報、PTA広報紙・新聞)等で、保護者等への広報に努めている。

IV 次年度へ向けて

- 1 令和2年度の学校経営方針(素案)
 - (1) 4つの重点項目「学びの充実」「体育文化活動の充実」「キャリア教育の充実」「情報発信・共有、施設の活用」について、各部・学年・教科等の目標をもとに具体的な指標を定めて実践する。
 - (2) 創立40周年を迎え、本校の歴史・現状・将来のあるべき姿と教育界の動向を踏まえて、カリキュラムの改善を着実に進める。議論の中から具体化する改善策は順次取り入れて、教育の質の一層の向上を目指す。